

作家の星亮一が、ジャンルを問わず、さまざまな分野の人たちと本音をぶつけ合う。1回目は星が提唱する大学院大学構想について、東京都市大学（旧武蔵工業大学、東京都世田谷区）の宗像文男教授と意見を交わした。

星 震災・原発事故から1年7カ

月余り、各地で除染が進み、徐々に賠償も実施され、避難した自治体では「仮の町」の設置場所が盛んに議論されている。復興に向けた動きは新たな局面に向かいつつある。

そこで、私が次に光を当てるべきと考えるのが教育です。この間、何

度も『政経東北』で書いてきたように、私は福島県に大学院大学を設置し、ノーベル医学・生理学賞の受賞が決まった山中伸弥先生のような人材を輩出すべく、夢と希望のあふれる取り組みに注力したい。宗像先生とはご縁があつて、現在、大学院大学のプランニングを共同で進めています。

宗像 きっかけは昨年6

月、県内の知り合いの大学教授から「福島県の復興プランが全く見えてこない」という話を聞いたことでした。そこで調べてみると、

国はさまざまな施策を打ち出し、予算を付けたが、例えば除染にしても、実施するのは東京の業者で、地元には全くお金が落ちていなかった。福島県の復興なのに、地元業者が蚊帳の外に置かれるのはおかしいし、

これでは地元経済も回復しない。言い換えれば、それを持つてくためのスキームをつくらないと、福島県とは無関係のところでお金が行き交うことになるわけです。

国は施策を打ち出し、予算を付けたことで「国としてやるべきことはやった」という立場です。じゃあ、そのお金を持つてくるためのスキームがいまの地元にあるか。そう考えたとき、まずは地元商工団体や行政などが連携して、予算とプロジェクトの受け皿となるリサーチセンター（研究協同組合）を立ち上げる必要がある、と。そして同センターが、星

先生が言う大学院大学や、さらには企業などと連携して、産官学連携の仕組みを構築していくのが理想だろうと、私は考えます。

星 私たちは福島県の復興に寄与するため、郡山の財界人を中心にNPO「フクシマ未来戦略研究所」を立ち上げた。そして、宗像先生の構想を聞き、大学院大学の実現に向けて一緒にやっつていこうとなったわけです。

先日、東大元総長で参議院議員と

して文部大臣を経験した物理学者の有馬朗人先生に裏替でおいししました。有馬先生とは以前、会津出身の東大総長山川健次郎先生のことでお会いしたことがあります。実は有馬先生は沖縄科学技術大学院大学をつくつたときの中心人物なんです。

有馬先生は「福島県の復興には確かにそういうものも必要だ」と理解を示され、東京でも研究してみようとおっしゃいました。東京の動きは宗像先生にフォローしてもらい、私たちは地元で必要な活動を継続し、お互いに緊密に連携しながら、関連する自治体にも働き掛けて全県的な運動を展開したいと考えています。

奈良にも国立の奈良先端科学技術大学院大学があるので近いうちに視察に行く予定ですが、関西には京都大学や大阪大学といった優秀な大学があり、なおかつ専門性を備えた先端的な大学院大学もあることを踏まえると、東北にも同じような研究施設があつていい。

まして福島県は原発事故の被災地です。大学院大学は復興のシンボルにもなるわけです。福島の大学院大